

# よしひめ

登録番号：第3586号

育成者：京谷英壽 吉田雅夫 山口正己

登録年月日：平成5年7月27日

西田光夫 石澤ゆり 西村幸一

登録者：農林水産省果樹試験場

小園照雄

(茨城県つくば市藤本2-1)

来歴：「21-18」と「あかつき」の交雑実生

## 特性

### ■栽培特性

樹勢はやや強く、樹姿はやや開張する。樹の大きさは中位である。枝の発生は密で、太さは中位、節間長はやや長めである。枝の地色は緑色で陽光面に赤く着色する。花芽、葉芽の着生は多く、結果枝の基部から先端部にかけて複芽を多く着生する。花は単弁普通咲きで、花卉の色は淡桃色、がく筒内壁色は黄緑色となる。

開花期の早晩は中程度で、「白鳳」および「白桃」よりも1～2日早く、育成地の茨城県千代田町では4月上旬、山形県および長野県では4月下旬、福島県、新潟県では4月中～下旬、岡山県、徳島県などでは4月上旬が開花盛期となる。花粉を有し、自家結実性なので授粉樹の混植は不要である。結実が多く、結果過多となりやすいので摘蕾が有効である。生理的落果は比較的少なく、安定して高い収量が期待できる。特に西南暖地では、「白鳳」に比べて収量が多いことが明らかになっている。果皮の着色は良好で、「白鳳」と同程度かやや優れており、裂果や果面のひび割れも見られないことから、無袋栽培が可能である。

収穫期は満開から約114日後となり、「白鳳」の約1週間後、育成地では7月下旬、山形県、宮城県、福島県および長野県では8月上～中旬、岡山県、徳島県等では7月下旬が収穫盛期となる。同時期に発表された「まさひめ」に比べて、2日程度収穫期は早い。

### ■果実特性

果形は円形で安定感があり、果頂部は浅く凹み、こうあ部はやや深い。片肉果の発生は少なく、玉揃いは良好である。果皮の地色は白色で、果皮全面に条状に着色する。「まさひめ」に比べて、着色が良好であることが特徴の一つである。果肉色は白色で、核周囲には中程度の紅色素がみられ、陽光面の果皮直下を中心に果肉内にも中程度の紅色素が認められる。肉質は溶質であるが、やや硬く締まり、日持ち性は「あかつき」なみで優れている。果汁は多く、糖度は12.5%前後で「白鳳」より1%程度高く、酸味はpHで4.4前後と少なく、食味は良好である。登録時の果実平均重は250g余りであったが、最近では300gを超える産地も見られることから、大玉生産が可能な品種であると推定される。核は粘核で、核割れの発生は極めて少ない。

### ■病害虫抵抗性および栽培上の留意点

特に著しい病害は報告されていないが、せん孔細菌病の発生は比較的多いので注意が必要である。灰星病にもり病性である。結実過多では果実の品質が劣りやすく、また樹勢の低下を招くので摘蕾・摘果等を適切に実施する必要がある。

### ■地域適応性

育成されてから年限が短く、今のところ植栽は多くないが、栽培性が優れ、果実品質も良好であることから、今後「あかつき」等の中生種と「川中島白桃」等をつなぐ品種として普及すると思われる。特に、西日本においては、「白鳳」等にもみられる収量の低下も少なく、着色も良好で無袋栽培が可能であることから植栽が増加するものと期待される。

(山口正己)